

街角のバジャン

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マナダール マダーブ ナラエン

私が生まれ育ったカトマンズでは毎日、街の至る所からバジャンの音楽が聞こえてきていた。物心つく前から慣れ親しんできたこの音楽は幼い頃を思い出させ、私を優しい気持ちにしてくれる。

バジャンは宗教音楽である。神々に歌を捧げることにより、世界平和や人類の平等を祈り、私たちの幸せを願いながら賛美するのである。そして神に世の中の悩みを聞いてもらい、一人で唱えるのではなく集団で唱えるように歌う。哀愁のある曲調は何となく決まったもののように聞こえるが、曲も歌詞も即興である。バジャンはヒンドゥー教寺院や仏教寺院、聖なる川の辺り、菩提樹の下で行われることが多い。また歴史的な建造物前や宗教行事を行う家に招かれて賛美することもある。多くの信者や住民、観光客が立ち止まる。参加も自由である。時には踊りも加わる。

私の父はビムセンスタン寺院でのバジャンに毎日のように出かけハーモニウム（アコーディオン）、タブラ（太鼓）、トライアングル等、どんな楽器もこなし歌った。私も幼い頃、連れられて行ったものだった。父が訪日した際、自宅にあったピアノでバジャンの即興演奏をしていた姿を思い出す。30年前になるでしょうか、成田山にスヴァヤンブーバジャンマンダール協会が招かれて演奏したことがあった。たまたま訪れていた父を、その日、成田山に連れて行った。そのグループの全員、父の知り合いで急遽バジャンに参加することになった。不思議な縁である。

ビムセンスタン寺院はヒンドゥー寺院で自宅からすぐの所にあり2年前の震災でも生き残った。建物は三重塔でできており、二階の一角がバジャンの場所だった。寺院に崇められているビムセン神は商売繁盛の神として有名で、街のどの店

にも、日本の神棚のように祀られている。

ネパールは祭りの国でもある。その度、人々は寺に詣で、神に祈り、祭事を行う。ホーリー祭では地域ごとにバジャングループを招き、地元のグループとしりとりのように歌を掛け合い、バジャンを披露する。最後にはティカに使われている色の粉を掛け合い、祭りは夜遅くまで続く。翌日は声が枯れ、服に付いた色は落ちなくて、よく母を困らせたものだった。



ビムセンスタン寺院



スヴァヤンブーバジャン寺院



バジャン奏者たちと観衆